

第6回教育支援コーディネーター・フォーラム(報告④)

第2部 テーマ別分科会 (13時30分から16時30分)

□ 分科会 I 「大会議場でワールドカフェ～地域・社会資源と学校支援～」 □ 【大会議場】

分科会 I では、昨年に引き続き、今年も「ワールドカフェ」というワークショップの手法で、学校支援に関わっている方々、約130名が参加し交流を深めました。

大会議場に用意されたのは、カフェのような丸テーブルです。各テーブルに企業・NPO、コーディネーター、行政関係者の、普段はまったく所属の異なる4・5人がこの丸テーブルを囲んでの、ワールドカフェです。笑顔で会場を後にする参加者のみなさんの様子が印象的でした。

(1) ワールドカフェの説明



「今日はさまざまな立場の人が集まっています。午前中には、企業や団体のプログラムなど一度にたくさん知ることができました。午後は、立場の違う人たちと『会話』をしてみましょう」

「お茶は出ませんが、カフェにいるようなリラックスした気分で話し合うことで、自分の活動について整理ができる、つながりが生まれる、新しい発想を得ることができる、それが“ワールドカフェ”です」

(2) ワールドカフェの様子



3回に分けてテーマが出されます。そのテーマに集中しながら、“議論”ではなく“対話”をしながら、丸テーブルの上の模造紙に全員がマーカーを持って発言を次々書いていきます。口も手も頭も動かします。

ひとつのテーマで20分対話したあと、グループのうち一人を残して席替えします。今回の最後のテーマは「どのように学校とつながり、多様なプログラムや出会いを届けるか」でした。

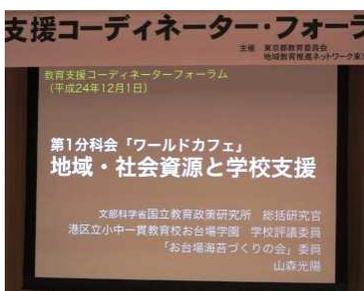


(3) 「全体でシェアしましょう」



3 回のテーマで“対話”を行った後、最初のテーブルに戻って、各テーブルで話された内容を報告しあいました。最後に、4 人の方々に、話された内容について簡単に報告いただきました。

(4) 講評



例年教育支援コーディネーター・ミーティングでもご助言をいただいている国立教育政策研究所統括研究官の山森光陽さんの講評で最後を締めくくりました。「社会資源」、「コーディネーター」を活用する意義について、専門の教育心理学の観点と経験を踏まえ、コメントをいただきました。

〔第二部分科会Ⅰの感想より〕

企業

- ・毎年のことですが、大変勉強になりました。気付き、ひらめきができる場を感謝しております。
- ・多様な立場の方から、さまざまなアイデア、意見をうかがえて、大変よかった。時間もちょうどよかった。
- ・色々な立場の方の意見が聞けて有意義でした。
- ・山森さんの講評のなかで、学校の評価規準にあわせるプログラムの重要性を感じました。
- ・学校だけではなく、地域の人の顔や生の意見を聞くことができたのは良かった。

コーディネーター

- ・色々なコーディネーターさん、企業さんのお話が聞けて良かったです。何をどのようにプログラムしていけば良いか分からない事ばかりでしたが、少し前に進めるキーワードを見つけられた気がします。
- ・いろいろな方々とお話することができ、少し頑張ってみようかなという気持ちになりました。
- ・小さなことからみなさん一歩ずつやられていて励まされます。
- ・たくさんの方と出会えました。今日の出会いを生かして、コーディネーターとして、活動して行きたいと思いました。
- ・同じテーブルに PTA からの参加者がいらして、保護者の立場としてのお話が伺え、参考になりました。皆さんと意気投合し、「また1年間頑張りましょう！」と、来年もこの場所での再会をお約束しました。
- ・もっと時間をとっていただき、全ての人とお話したかった。山森先生のお話がおもしろかったです。

教育行政関係者

- ・盛りだくさんでしたが、知識を増やすことができました。生の声を聞くことができて良かったです。
- ・ワールドカフェ方式がとても良かったです。生の声がたくさんきけました。